



京都市立鷹峯小学校

校長 今井 大介

★たかがみねだより

TEL491-3607 FAX491-3697
鷹峯小学校 HPQR コード→



日頃は、本校の教育活動にご理解・ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。今までも、保護者の皆様にご協力をいただいている「アンケート」調査を学校評価の大切な指標として、保護者の皆様のご意見を本校教育に生かす取組を進めてまいりました。

今年度も、2月に「下半期アンケート」として、ご協力いただきました。結果をもとに、本校の教育活動の中で、継続発展すべきところ、改善すべきところや課題を明らかにし、来年度の教育活動に生かしていきたいと思っております。

また、本アンケートの結果は、学校運営協議会理事会の方々にも配布し、共有しています。お知りおきください。

学校評価アンケートの概要

児童、保護者、教職員を対象にアンケートを行いました。質問項目は、『確かな学力』『豊かな心』『健やかな体』の3つの内容を問うものです。

この3つは、本校学校教育目標の『目指す子ども像』の柱でもあります。

(1) 『確かな学力』

「人の話を聞くこと」、「思考と表現に関わること」、「家庭学習に関わること」などを聞いています。

(2) 『豊かな心』

「ものを大切にすること」、「きまりや約束を守ること」、「自分から挨拶すること」などを聞いています。

(3) 『健やかな体』

「生活習慣に関すること」、「好き嫌いをなく食べること」、「安全に関すること」などを聞いています。

1. 結果

【保護者】

	よく出来ている		大体出来ている		あまり出来ていない		出来ていない	
	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期
お子達は、人の話を最後まで聞いていますか。	8%	7%	65%	71%	27%	22%	0%	0%
お子達は、自分の思いや考えを、言葉や文章で表現できていますか。	8%	11%	51%	53%	40%	35%	1%	1%
お子達は、時間を決めて、ていねいに学習に取り組んでいますか。	4%	7%	52%	49%	41%	38%	3%	6%
お子達は、身の回りの物を、大切にできていますか。	13%	11%	55%	56%	32%	31%	0%	2%
お子達は、きまりや約束、社会のルールを守れていますか。	19%	31%	74%	61%	7%	8%	0%	0%
お子達は、周りの人や友だちを大切に、思いやりの心をもって、接していますか。	33%	39%	60%	57%	7%	4%	0%	0%
お子達は、自分から進んで、気持ちよくあいさつができていますか。	20%	31%	60%	51%	20%	17%	0%	1%
お子達は、健康に気を付けて、生活や体力づくりができていますか。	26%	22%	60%	58%	14%	18%	0%	2%
お子達は、お家での食事の際、好き嫌いをなく、何でも食べていますか。	27%	28%	53%	49%	19%	18%	1%	5%
お子達は、安全(交通・防犯)に気を付けていますか。	26%	24%	70%	68%	4%	8%	0%	0%

【児童】

	よく出来ている		大体出来ている		あまり出来ていない		出来ていない	
	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期
人の話を最後まで聞いていますか。	43%	35%	48%	59%	8%	5%	1%	1%
自分の思いや考えを、言葉や文章で表現できていますか。	34%	39%	44%	39%	19%	17%	3%	5%
時間を決めて、ていねいに家庭学習に取り組んでいますか。	43%	37%	35%	35%	18%	23%	4%	5%
身の回りの物を、大切にできていますか。	57%	54%	39%	40%	4%	5%	0%	1%
きまりや約束、社会のルールを守れていますか。	49%	53%	43%	41%	8%	3%	0%	3%
周りの人や友だちを大切に、思いやりの心をもって、接していますか。	57%	61%	36%	36%	6%	2%	1%	1%
自分から進んで、気持ちよくあいさつができていますか。	60%	57%	29%	28%	10%	13%	1%	2%
健康に気を付けて、生活や体力づくりができていますか。	60%	60%	27%	30%	11%	8%	2%	2%
お家での食事や給食は、好き嫌がなく、何でも食べていますか。	53%	52%	33%	35%	10%	9%	4%	4%
安全(交通・防犯)に気を付けていますか。	72%	79%	24%	16%	3%	5%	1%	0%

【教職員】

	よく出来ている		大体出来ている		あまり出来ていない		出来ていない	
	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期
児童は、人の話を最後まで聞いていますか。	8%	8%	69%	67%	23%	25%	0%	0%
児童は、自分の思いや考えを、言葉や文章で表現できていますか。	0%	0%	69%	65%	31%	35%	0%	0%
児童は、時間を決めて、ていねいに学習に取り組んでいますか。	15%	17%	62%	60%	23%	23%	0%	0%
児童は、身の回りの物を、大切にできていますか。	0%	17%	85%	68%	15%	15%	0%	0%
児童は、きまりや約束、社会のルールを守れていますか。	15%	17%	70%	70%	15%	13%	0%	0%
児童は、周りの人や友だちを大切に、思いやりの心をもって、接していますか。	23%	25%	69%	67%	8%	8%	0%	0%
児童は、自分から進んで、気持ちよくあいさつができていますか。	15%	25%	62%	65%	23%	20%	0%	0%
児童は、健康に気を付けて、生活や体力づくりができていますか。	23%	33%	77%	57%	0%	10%	0%	0%
児童は、給食を好き嫌がなく、何でも食べていますか。	23%	25%	77%	75%	0%	0%	0%	0%
児童は、安全(交通・防犯)に気を付けていますか。	15%	25%	85%	65%	0%	10%	0%	0%

2. 分析

(1) 『確かな学力』

上半期と比較すると、「確かな学力」の項目では、児童と教職員の実現度が一部を除き、下がっているという結果でした。保護者は、上半期と比較すると高い現状です。

小学校低学年における学力差が、その後の学力差の拡大に大きく影響します。低学年では、学習の質に大きく関わる語彙量を増やすことなど、基礎的な知識・技能の定着や感性を豊かに働かせ、身近な出来事から気付きを得て考えることを大切に指導し、中学年以降の学習の素地を形成していくとともに、一人一人のつまずきを早期に見出し、指導上の配慮を行っていきたいと考えています。

中学年では、生活科の学習が終わり、社会科や理科の学習が始まります。低学年で具体的な活動や体験を通じて身に付けたことを、より各教科等の特質に応じた学びにつなげ、安心して学べる学級集団の中で、基礎的・基本的な知識及び技能を反復練習もしながら確実に定着させるとともに、知識及び技能の習得や活用の喜び、充実感を味わ

う活動を充実させていきたいと考えています。

高学年は、抽象的な思考力が高まる時期であり、教科等の学習内容の理解をより深め、育成を目指す資質・能力の育成に確実につなげるために、専科指導も取り入れながら、子どもたちの個性に応じた得意分野を伸ばしていきたいと考えています。

来年度に向け、アンケート結果の数値に表れなかったことは真摯に受け止め、資質・能力を確実に習得させるために、個々の児童の状態をより丁寧に把握し、個別的な対応を、今一度見直していきたいと思えます。

家庭学習については、習慣化していくことが大切です。確かな学力定着のために、お家の方にもお力添えをいただきますが、引き続きよろしく願いいたします。

(2)『豊かな心』

「ものを大切にすること」「きまりや約束を守ること」「自分から挨拶をすること」など、豊かな心の回答においては、下半期でも保護者・教職員と、児童に認識の差が見られました。

子どもたちは、家庭や学校でのルールや約束を守ったり破ったりしながら、人との関係の在り方や社会のルールの大切さを学んでいきます。ルールには「挨拶」「帰宅時刻」「就寝時刻」「きちんとした姿勢」など、生活上のルールもあれば、「他人に迷惑をかけない」「嘘をつかない」といった、道徳上のルールもあります。それらに一貫性をもたせ、身につけさせるためにも、ご家庭においてもはっきりしたルールをつくり、子どもはもちろん、周囲の大人も守る姿勢が大切だと思っています。

昨今、問題になっていることは、テレビやゲーム、携帯電話にのめり込むと、人間関係をつくる力や他人を思いやる心が育たない、仮想と現実の区別がつかなくなるなど、子どもの健全な心の成長に影を落としていることです。また、携帯電話やインターネットは、使い方一つで、役立つ道具にもなれば、子どもの身を危険にさらす道具になります。外の世界とすぐに情報がつながることは、見知らぬ危険な世界と子どもが直結することにもなります。

家庭、地域社会、学校において、様々な生徒指導上の課題が早期化し、中学校からではなく、小学校高学年からの対応が必要となってきています。こうした課題に対応するために、学校の全教職員が子どもたちと関わり、育てていくことや、共通理解を大切に、今後も、家庭、地域社会、学校における教育を一緒に考えながら、教育活動を進めていきたいと考えています。

(3)『健やかな体』

下半期、「生活習慣に関すること」、「好き嫌がなく食べること」、「安全に関すること」など、健やかな体の回答においても、保護者・教職員と、児童に認識の差が見られました。

近年、偏った栄養摂取、朝食欠食など食生活の乱れや肥満・痩身傾向など、子どもたちの健康を取り巻く問題が深刻化しています。子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、学校においては、栄養教諭による食育学習に取り組んでいます。また、全市においても、食物アレルギーやエピペン保持の割合は増加傾向にあります。本校では、給食や調理実習、校外活動等において、全教職員が適切に対応できるように、情報共有や校内研修等でエピペンの取扱いに関する実習、緊急時の校内体制の構築・訓練を実施しています。

2月13日(木)に、学校保健委員会を実施しました。本校児童の健康状態において、裸眼視力0.7未満の児童の割合は24%で、ここ数年、高い割合が見られます。子どもの視力低下は身近な健康課題となっており、文部科学省の調査でも、視力が1.0未満の子どもの割合が小学校、中学校、高校のすべてで過去最高になったと、ニュースでも報じられていました。小学校におけるICT活用が進む一方で、タブレットやスマートフォンといった電子機器の利用など、近くをみる作業の増加が影響していると、専門家は指摘しています。

子どもたちがより健康に過ごせるよう、学校保健委員会における本校の健康課題についての協議を踏まえ、来年度の学校保健計画に反映させていきたいと考えています。

3. 児童の自己評価 ～記述より～

鷹峯小学校の良いところは、どんなところですか。(記述抜粋)

- ・学年関係なく、みんな親しみをもっている。
- ・友だちを大切にできる。
- ・明るくて、活気がある。
- ・いろいろな行事がある。

子どもたち、ひとりひとりの活躍の場がある学校行事にするために、子どもたちが主体となった取組を進めていきます。

鷹峯小学校をどんな学校にしていきたいですか。(記述抜粋)

- ・全学年、がんばろうという思いで取り組む学校。
- ・みんなが優しく、困っていたら助け合う学校。
- ・切り替えができ、気遣いができる学校。
- ・積極的に意見が言える学校。

失敗を恐れない、間違いやできないことを笑わない。どうすればできるようになるのかを、みんなで考える支持的な学級・学校づくりをしていきます。

鷹峯小学校を良くするために、どんなことをがんばりますか。(記述抜粋)

- ・下級生の手本となり、積極的に行動する。
- ・自分の失敗を活かし、他の人に伝えていく。
- ・自分から、あいさつをたくさんする。
- ・人によって態度を変えず、行動する。

お互いの個性や多様性を認め合い、安心して学校生活が送れるように、自己肯定感や自己有用感を育てていきます。

鷹峯小学校に、あったらいいなと思う取組は何ですか。(記述抜粋)

- ・あいさつ運動。
- ・たくさんフレンドリー活動。
- ・季節に合ったイベント。
- ・新1年生との交流活動。

日ごろの教科学習では発揮できない自分の良さや、友だちのがんばりなどを実感できる取組にするために、鷹峯小学校で大事にしていきたいことや学校行事を見直していきます。

2月の半日入学では、1年生が、5歳児さんと一緒に、学校探検をしました。来年度は、連携接続園と架け橋プログラムをさらに推進していきます。

4. さいごに

今年度入学してきた児童の5年後、2030年の未来社会は、変化の加速度を増し、複雑で予測困難と言われています。そうした変化が、どのような職業や人生を選択するかに関わらず、全ての子どもたちの生き方に影響するものとなり、社会の変化にいかに対処していくかという受け身の観点では、難しい時代になると考えられています。

これからの学校には、一人一人の子どもたちが、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められています。

児童の資質・能力の育成にあたっては、主体的に環境と関わり、直接的・具体的な体験を通して豊かな感性を発揮したり、好奇心や探究心を高めたりしていくなど、幼児期の学習を小学校以降にもつなげていく幼保小接続(架け橋プログラム)が重要とされています。

鷹峯小学校の学校教育目標『自ら感じ・考え・協働し、豊かに表現し合う子どもの育成』を実現していくために、学校の教育活動全体について絶えず見直すことを大切に、令和7年度に向け、改善の努力をしていきたいと思っております。

今後とも、ご支援、ご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。